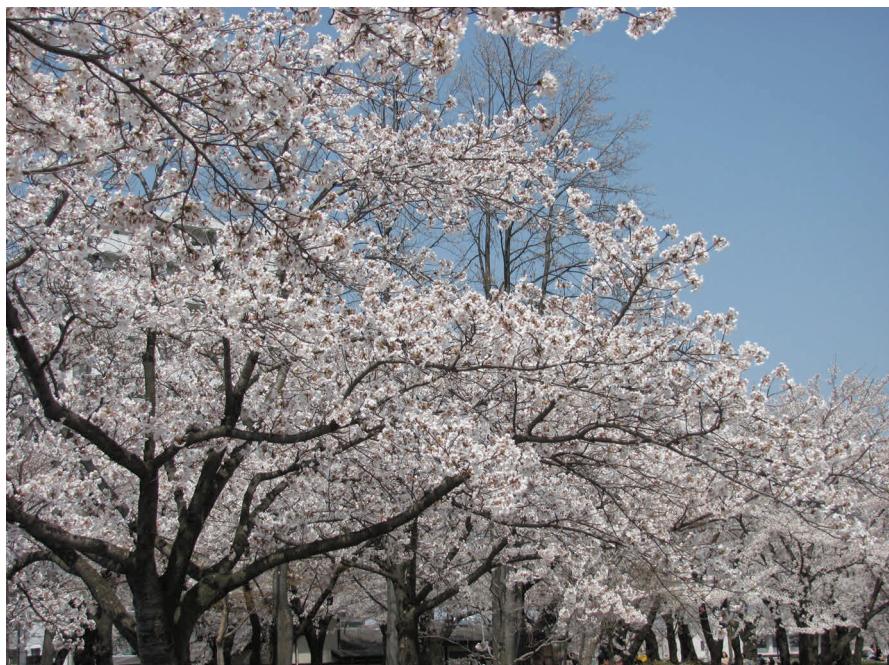


開成の泉

郡山女子大学図書館報18号 平成25年6月



開成山公園の桜（郡山市、2013年4月撮影）

題字 学校法人郡山開成学園名誉学園長 関口富左

目 次

「図書館の風景」

郡山女子大学副学長・教授 石堂 常世 ······ 2

お知らせ

····· 4

図書館の風景

郡山女子大学

副学長・教授 石堂 常世

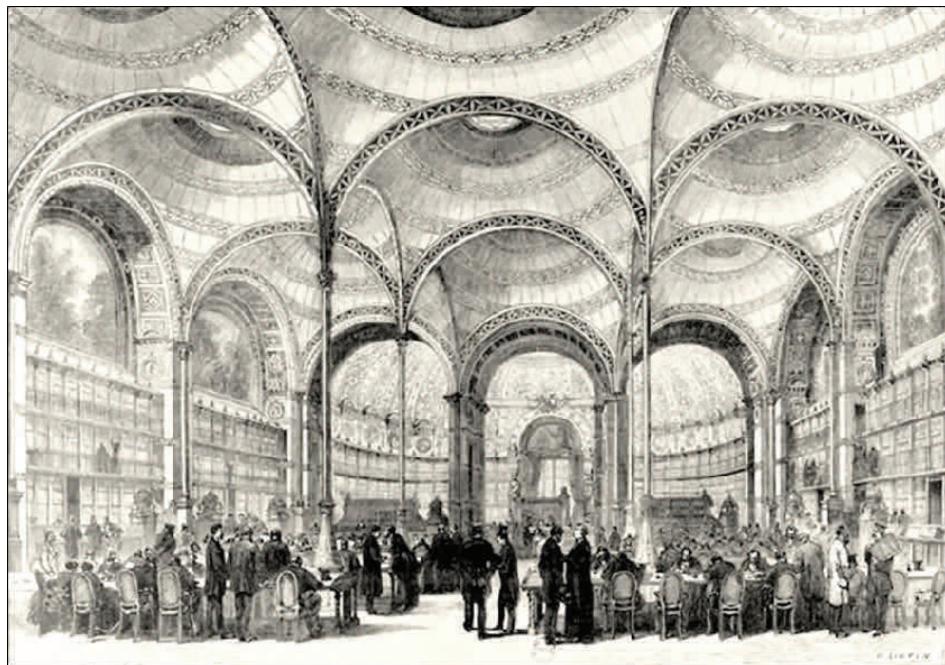
図書館は、IT時代の到来とそれによる豊富な情報提供によって、その存在価値が大きく変化した。今の学生たちは、卒論を書くにも、図書館に行って文献を探して熟読してまとめあげるというよりは、インターネットで関係資料や論文を探し出し、それらを適当にまとめて仕上げてしまう傾向が強い。研究者においても、この傾向は似たりよったりで、他国の法案、政策案をITで抽出し、その概要を紹介するかたちで論文を書いたり学会発表をしたりする傾向がある。しかし、学問とは、資料の手早い紹介や総まとめに終わってはならないであろう。

今や、図書館の存在価値はなくなったかといえば、そうは言えない。ITで得られる情報は、法律や諸規定、あるいは何かの事象についての概要、高名な古典の意味などを一举に知るには便利この上ない。しかし、深くより正しい認識をものにして、知を体系化するには、ITによる情報を越えなければならない。

現在の図書館には、ITを有効に活用し、蔵書への多面的検索に応えるだけのシステム整備が求められており、その点で早稲田大学の図書館がWINE(ワイン)という名称を用い、外部からでも誰もが、著者名、書名、カテゴリー別にそれぞれいづれかで入力すれば、お目当ての本の収納の有無、貸出中かどうか、学内のどの図書館や図書室にあるのかも、一瞬で画面に現れるようになっている。もちろん、過去の新聞記事も論文も取れるし、他大学の図書館にあるかどうかも判明する。

このシステムの導入は、21世紀を展望したキャンパス整備計画の目玉として、1991年に国際会議場を併設した巨大な中央図書館を新設した時に始まる。あれから23年、時は流れ、過日この図書館に入ったとき、重厚な館内の机には学生たちの手垢や汗がにじんでいて何か臭気が漂い、椅子に座る気になれなかつた(笑)。

私は早稲田大学の学生だったとき、今は旧となった図書館の主でもあるかのように日々参したものである。夜9時が閉館であったため、ブザーに追い立てられるように名残惜しく図書館を出た。フランスに留学した時も、パリのオペラ座に近いリシュリュー通りの旧国会図書館に通って文献探しをしたが、その頃は閉架式だったので、いちいちカードで閲覧を要請しなければならなかつた。また、出てきた本が役立たずという場合も少なくなかつた。図書は、原則としては、万人に開かれておらねばならず、一定の人々や機関の専有物ではない。そうはいっても、図書の開示はえてして外部には閉鎖的になりがちである。



フランスの旧国会図書館の閲覧室（1886年、竣工当時のエッチング拡大図）
(晩年に目を病んだサルトルが付人に伴われ、この一角の椅子に座って静かに書を
ひも解いていた、と聞いた。)

稀蔵本ともなると、過去から現在に至る戦火や略奪の歴史を越えて生き残ってきた貴重な文化遺産でもある。その点では、足利学校の遺跡図書館を見学した際に、豊臣時代に略奪によって当時の所蔵本の大半が京都にもっていかれたと聞き、しみじみと歴史の残酷さを実感した。フランスでも同様で、1789年に勃発したフランス革命の際に没収された修道院や亡命貴族の蔵書がパリ市内9か所に集められ、その膨大な写本や図書が、王立から国立に変わったばかりの図書館に収められたが、他方、革命の精神からして、王族・貴族の家系図を含む貴重な文書類がヴァンドーム広場で焼かれて消滅したそうである。3500箱のうち、残されたのは1500箱だったといわれる。

1874年に全館完成したこの旧図書館は、パリ大改造をした第2帝政期(ナポレオン三世)の華やかな雰囲気を残している楕円形の美しい瀟洒な建物である。現在では国会図書館としては使われていない。1994年に、ミッテラン大統領の見解で、それこそIT時代に即応する巨大なガラス張りの建物がパリ郊外のトレビヤックに4棟構成で建てられたためである。21世紀に向けて建造された平面的なコンクリートの図書館は、まったく異質である。もちろん、ミッテラン図書館の方はすべてコンピューター操作であり、無機質的である。人間を拒否するかのごときイメージが感じられる図書館である。ただ、巨大なガラス越しに見えるようにしつらえたこれも巨大な内庭の緑がほっとさせてくれる。これから図書館はどうあつたらよいのか、カナダのトロント大学のこれも壮大な丸型天井の閲覧室で、夜通し本に向かっていた学生たちの姿を思い出す。

この点で、本大学図書館の障子の窓とそこから見える松の大木は、いかに閲覧者をなごませてくれることであろう。

お知らせ

新入生説明会を開催しています

平成25年度新入生に対して図書館の説明会を、学科ごとに開催しています。ご利用ください。

図書館応援団〈天壇青☆〉活動しています



平成24年度より、学生による図書館応援団〈天壇青☆〉の活動が始まりました。学生リクエスト制度の広報、蔵書による「おすすめの本」の展示などの活動を行っています。

平成25年1月に、学校法人郡山開成学園名誉学園長・関口富左先生がお亡くなりになりました。
謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

図書館報第18号をお届けします。
ご意見、感想などありましたら遠慮なく図書館職員までお知らせください。これからも当館をよろしくお願いいたします。

(W)

郡山女子大学図書館報〈開成の泉〉第18号
平成25(2013)年5月30日発行

編集：郡山女子大学図書館報編集委員会
発行：郡山女子大学図書館

<http://library.koriyama-kgc.ac.jp>